

リーベル通信

発行責任者：NPO 法人

八女地区障害者相談支援センター「リーベル」

住所：八女市本町 17-2

電話：0943-22-2610



NPO 法人 八女地区障害者相談支援センター リーベル
理事長 西原 洋文



あけましておめでとうございます。

昨年 10 月に NPO 法人として再出発しました 八女地区障害者相談支援センター
リーベルの西原です。「誰?」と、思われた方に簡単に自己紹介。

普段は、JR 筑後船小屋駅で働いています。妻と三人の子どもの五人家族で、次男(22 歳)が多重型の
自閉症です。(なかなかのナイスキャラです)

NPO 法人化には当事者側の代表として準備委員会に参加し、スタート時の理事長に指名されました。
他の理事の方々が適任とは思いましたが、相談支援は障害当事者のためにある制度なので甚だ力不足
ですが、お引き受けしました。

これまで八女市は早い段階で相談支援事業をはじめ熱意を持って運営して来られました。
おかげでリーベルは頼りになるスタッフが揃っています。

平成26年度からは、基幹相談支援センターとして活動していくことを前提に、行政の方々と協議を重ねて
います。障害者虐待防止センターとしての業務一部委託、サービス等利用計画を進めていく上で地域の
指定相談支援事業所との連携、権利擁護支援の強化等、取組んでいく課題はたくさんありますが、ひとつ
ひとつの課題を地域のみなさんとしっかり協議して行きたいと思います。

今後、八女地区が障害のある人、家族にとって暮らしやすい所と言われるよう、そして、その担い手は
リーベルだと言われる存在になれるよう職員一同、力を合わせてまいります。





～八女地区自立支援協議会～

生活支援分科会

5回シリーズで“高次脳機能障害について”理解を深める学習会を行いました。まずは3巻のDVD鑑賞とグループ討議。「高次脳機能障害のリハビリテーションについて」、「当事者の方の生活の場面」、「就労復帰の実際の現場」、「家族の思い」等を映像を通して知ることから始めました。高次脳機能障害とはどんな障害かイメージがわきにくかったのですが、DVDをみることで“障害によって生活のしづらさがあること”を具体的に分かりやすく知ることができました。グループ討議を重ねる中でDVDは上手くいった事例であったため「(支援が)うまくいかない事例を検討してみたい」との意見が聞かれ、第22回では“年輪の園”より事例提供いただき、問題点、課題についてグループ討議を行い、参加者からの素朴な疑問、活発な意見交換が行われました。最終の回では福岡県リハビリテーションセンターより下濱氏、作業療法士の牟田氏にお見えいただき、前回事例検討したケースへのアドバイスと、改めて高次脳機能障害の特性についてご講義いただきました。発症前の本人さんの生活、性格はどうだったのかという視点が大事であるというお話はとても印象的であり、今後支援する際には、その視点を大切にしていきたいと改めて気づかされ勉強になりました。



教育分科会

昨年10月の第16回教育分科会では、60歳の高校生、谷口妙子さんにお話を伺いました。昭和54年に養護学校が義務化されましたが、それ以前は障害のある人は義務教育を免除されていたため、谷口さんも学校に行く機会がありませんでした。そして56歳のとき、入所している施設の職員や家族の勧めもあり、筑後特別支援学校の中等部に入学、今年度は高等部に進学されました。入所施設で元気に訪問教育を受けていらっしゃいます。「勉強がとっても楽しい。スクーリングで同級生と会うのもとっても楽しい。学校へ行くようになってから生活にメリハリがつき、毎日が楽しくなって、若返りました」と、充実した学生生活を送っておられる谷口さん。その前向きな姿勢と明るい笑顔は本当に素敵で、改めて教育の意義を考える機会となった分科会でした。

12月には第17回の分科会を開催。青年海外協力隊に参加したことのある、リーベルの相談支援ワーカー 服部真子から協力隊の体験談を話させていただきました。服部はニカラグアという国で2年間、ボランティア活動をしてきました。みなさんはニカラグアという国をご存じですか？ 中米にある、三角形の形をした国です。ぜひ地図で探してみてくださいね。



谷口 妙子さん 服部 真子

分科会での取組み状況を報告します



視察に行ってきました

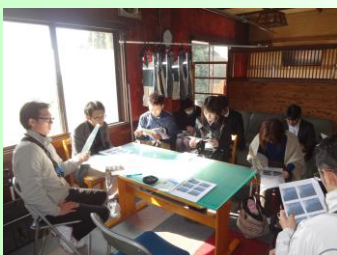
一般就労 去る11月29日、(株)エフピコ愛パック佐賀工場(佐賀県神埼町)に視察に行ってきました。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、食品トレイの会社で、従業員さんのほとんどは重度のしょうがいをお持ちで、継続支援 A 型事業所です。一日 8 時間フルタイムで働かれ、「しょうがい者を特別扱いせず、休まず来られるように責任を持たせるなど、一人ひとりの作業が戦力として担われるように」色々な工夫がなされていました。ごみひとつなく、きれいに掃除された職場で、来られる方が気持ちよく入れる工夫をされていることも印象的でした。

「職場での基本的なマナーやコミュニケーション」「レクリエーションを通して社会人としての意識づけ」という理念を掲げ、余暇活動としてフロアホッケーなどのクラブ活動にも力を入れられ、作業の質の向上や、本人さんの成長につながる取り組みをされており、参考になることがたくさんある視察となりました。



福祉的就労 去る11月22日(金)、佐賀県みやき町にありますアース・カラー(就労移行、継続支援事業所、ケアホーム)に視察に行きました。ほとんどの利用者は精神しょうがいをお持ちの方方で、スタッフは精神科病院出身という事もあり、利用者スタッフとの信頼関係もその場の雰囲気を感じることが出来ました。ここでは機械を使って、ジャガイモや玉ねぎの皮むき作業をされており、とても大きな音がして「音に敏感な方は難しいだろうな」と思いました。これらは全て「ミスタージョージ」というハンバーグ店に納品されているとのことです。帰りの昼食では鳥栖のミスタージョージに寄りました。利用者の皆さんが一生懸命作られた玉ねぎ、ジャガイモはとてもおいしかったです。

又、1月17日(金)に就労支援分科会を開催し、一般就労、福祉的就労部会からそれぞれに視察の報告を行いました。



新年会(のぞえ風と虹レストランにて)

1月21日(火)直鞍地区(直方市、鞍手町)自立支援協議会

直鞍地区就労部会におじゃまし、八女地区の就労支援分科会の取り組みについてお話させていただきました。私達八女地区の就労支援分科会のふりかえりにもなり、今後も、それぞれの地域の特性に応じて、発展していくことを願っています。また、初めて、直方市にお伺いする機会でも、同行したメンバー(八女市役所福祉課中島さん、リーベル山村、野中)はドキドキ、ハラハラの道中で、貴重な体験をさせていただきました。

～これまでも、これからもふたりで～

お互いを思いやりながら暮らし始めて五年になるお二人をご紹介します。

吉敏さん&はつ美さんに直撃インタビュー



by Mako

・ふたりの出会いのきっかけは？（回答：はつ美さん）

共同作業所に通っていた時にお付き合いしました。雇用支援センターを利用して私が先に就職して、一度別れました。その後、よっちゃんも就職して再度お付き合いを申し込まれました。

・一緒に暮らそうと思ったきっかけは？（回答：吉敏さん）

私は、就職した当初から一人暮らしをしました。最初の頃は、食事の準備をすることが一番大変でしたね。でも、色々な人に協力してもらい料理も楽しみながら覚えました。五年前の日曜日、はつんちゃんが私に電話をして「今から一緒に住んでもいいですか?」と、言ったのです。私は、夜も遅かったので「明日、おいで」と、返事をしました。はつんちゃんも実家を出て暮らしたかったようです。両親を説得して来たようですよ。

・今、一緒に暮らしてよかったなあと思うことは？

（はつ美さん）よっちゃんの真面目に働く姿がすてき。そんなよっちゃんといることが嬉しい。休みの日は、ふたりでバスや自転車で買い物に行き、家事をします。料理をおいしいとほめてくれるので嬉しいです。

（吉敏さん）ニコニコ笑顔がすてきなはつんちゃん。私は年末に目の手術のため入院しました。

以前から視力が弱く心配でした。はつんちゃんは、毎日病院に来てくれました。手術の日も夜遅くまで病室にいて移動するときも、そばで手をひいてくれました。ありがとう。

（ふたりの姿に、ご家族は少しずつ少しずつ応援団の一員になってくださっています!）

リーベルスタッフ紹介

平成 25 年 10 月、新たなスタッフ 2 名を迎え、計 8 名（相談支援専門員 7 名、事務員 1 名）で対応しています。どうぞ宜しくお願いします。



（左上段より）西村・金納(事務)・服部・池寄・牛嶋

（左下段より）山村・田島・野中

※服部相談支援ワーカーは産休代替として 2 月末まで対応します。上村相談支援専門員は平成 26 年 3 月復帰します。

☆編集後記☆

昨年末、今回も匿名氏からリーベルにクリスマスプレゼントを頂きました。ありがとうございます。空気保湿清浄機等購入致しました。いつでも気持ちよく相談できる環境になりました。感謝の気持ちをリーベル通信にのせてお礼申し上げます。

さて福祉サービス利用にあたりサービス等利用計画作成が必須となり八女市にも相談支援事業所が増えました。まず一人一人の生活の背景を知り、想いを語ってもらう事が大切です。これまでに研修会や定期的に意見交換会を行い相談支援事業所間の情報共有と取組み姿勢を確認してきました。本来、夢を実現するための楽しい計画作成のはず。だけど皆とまどい、苦勞し悩んでいる。『制度がおかしか。』

『一人で抱え込まない地域「八女版」ば、しっかりつくるばい!』

